

高齢者の内受容感覚に関する精神生理学的研究

① アピールポイント



助教
上野 大介

この研究は、感情調整や意思決定に関係する内受容感覚の評価指標を開発し、メンタルヘルスや意思決定を可視化し、それらの改善を目指しています。

② 研究の出口のイメージ

高齢者が健やかに過ごせる社会を目指しています！
高齢者のwell-beingに関心のある企業との共同研究を希望しています。

キーワード

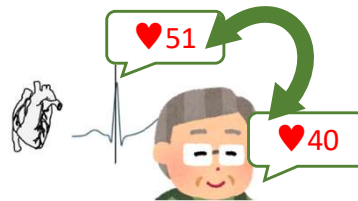
内受容感覚、メンタルヘルス、意思決定、well-being、老年期

研究内容

内受容感覚は、心拍や内臓などの身体内部に対する感覚の総称です。自分が感じる心拍数（主観）と心電図等で測定した心拍数（客観）との差（ズレ）を指標にしています。内受容感覚のズレの大きさは、合理的な意思決定の不全やメンタルヘルスの悪化などに関連しています。

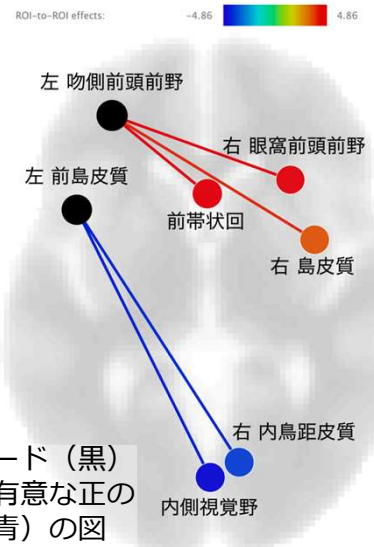
私たちは、高齢者の内受容感覚の脳神経基盤を明らかにしました。高齢者は内受容感覚を維持するために、若者と同様の脳内ネットワークを基盤としつつも、より多くの脳領域と関連していることが分かりました（右図）。

現在は、内受容感覚のズレを修正する能力を評価する手法を開発しています。今後は、内受容感覚のズレを指標にしたメンタルヘルスの改善や詐欺被害予防を推進する研究に取り組みます。



・手がかりを使わずに指定された秒間の心拍を数える
内受容感覚の測定
(心拍カウント課題)

・内受容感覚のズレとシード（黒）の脳機能結合に関連する有意な正の相関（赤）と負の相関（青）の図



高齢者の内受容感覚と安静時脳機能結合
Ueno et al. *Front Aging Neurosci* 12: 592002, 2020.